

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング(装飾)など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・ 通 年	120	4		○			○			
○			アイテム演習 ジュエリー	・ジュエリー・アクセサリ商品の基礎知識の習得。 ・ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ジュエリー・アクセサリ商品取り扱い店舗(高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗)における市場調査による商品研究。	1・ 通 年	120	4		○			○			
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技法の習得。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きブレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショッパーリサーチレポート等。	1・ 通 年	120	4		○			○			
○			アイテム演習 シューズ	・基本デザイン(モカシン・パンプス)の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・ 通 年	120	4		○			○			
○			自由研究 I	各課題や個人の自由実習。通常授業以外の制作をすることによる、各個人のレベルアップ。 ・ブランド研究(帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究) ・文化祭バザー作品のグループ制作 ・各種コンテストの参加 ・美術館、博物館等の見学	1・ 通 年	60	2			○	○	○	○		

○		ハンディクラフトⅠ	各種のクラフトテクニックを、エンブroidリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。 併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる	1・通年	60	2				○	○	○	○
○		造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。 一般的な造形・デザインに対する基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○	○		

(別紙様式4)

(2/2)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○		△	○		○		
○			デッサンⅠ	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画	・衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する ・衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる ・ファッショングッズを引き立てる着装画としての表現力	1・通年	60	2			○	○		○		
○			グラフィックワークⅠ	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1			○	○		○		

○		服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。	1・前期	60	2				○	○	○						
○		服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○	○							
○		素材論	繊維素材（各種繊維・糸・布地・染色加工）の種類・性質について基礎的な知識を習得させる。さらに繊維素材製品の展開などにも関連させ知識を深めることを教育の目標とする。	1・後期	30	1	○			○	○							
○		ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○	○							
○		クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○	○							
○		特別講義Ⅰ	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	60	2	○			○	○							
○		校外研修Ⅰ	都会生活から離れた「自然の中」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力や協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深めることを目的とする。 規律を強調がいかに人間関係に潤いを与え、楽しい物であるかを知り、一人一人が規律正しい健康的な団体生活を送れるよう心がけ、相互理解を深める。	1・前期	30	1				○	○	○						

合計 18科目 1140単位時間(38単位)

卒業要件及び履修方法

授業期間等

単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

(1/4)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 2020年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シューズデザインⅠ	基礎段階から、より具体的な素材別、アイテム別の流行に沿ったデザイン発想力を養う。 ・シーズン毎の素材をテーマに、具体的な課題によるデザインスケッチ作成 ・市場調査とレポートによる、デザイン、カラー、素材、爪先/ヒール形状の傾向を捉える演習 ・国内、海外の様々なデザインコンテストへ参加	2・通年	120	4			○	○		○		
○			シューズパターンメイキングⅠA	基本デザインのパターン設計技術の基礎を習得する。 ・紳士短靴基本デザインのパターン設計手順の習得	2・前期	90	3			○	○		○		
○			シューズパターンメイキングⅠB	・紳士指定ラストによる各自オリジナルデザインのパターン設計	2・後期	90	3			○	○		○		
○			シューズ制作実技ⅠA	紳士短靴のオリジナルデザイン制作の実習を通じて基本的な裁断、製甲、底付け、仕上げの工程を理解する。	2・前期	90	3			○	○		○		
○			シューズ制作実技ⅠB	基礎的な手釣りのセメント製法の製造技術を習得し、作品サンプルづくりに活用する。	2・後期	120	4			○	○		○		
○			シューズ造形Ⅰ	柔軟で自由な発想によるデザイン応用力の強化(実施内容)・オリジナル革プリント制作 ・下駄制作・ヒール制作・足型石膏採り	2・通年	60	2			○	○		○		
○			靴人間工学	足と靴の良い関係を模索するための科目で足からのアプローチを主として講義を進め理解を深める。	2・後期	30	1	○				○		○	○
○			シューズ素材論	靴に使用される甲材、底材、副資材や、各製法の特徴、道具としての靴型、サイズの仕組みなど、シューズデザイナーとして必要な知識を習得し、製品の仕様書を作成できるレベルを目指す。	2・前期	30	1	○				○		○	

○		自由研究Ⅱ	各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する。 ・各種コンテスト ・コラボレーション企画への参加 ・美術館、博物館等の見学 ・個人テーマによる作品制作	2・ 通年	60	2				○	○	○		
○		ハンディクラフトⅡ	ハンディクラフトⅠで学習したクラフトテクニックの応用。エンブroidアリー・布の加工の他にレースのテクニックも含めより高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。シューズなどの皮革製品への応用を念頭に、よりクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・ 前期	30	1				○	○	○		
○		デッサンⅡ	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。	2・ 通年	30	1				○	○	○		

(別紙様式4)

(2/4)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 2020年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			シューズデザイン画Ⅰ	シューズ基本フォームやテクニックの習得、リサーチからのインスピレーションアイデアをデザインワークに展開し表現力を高める。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			造形デザイン	ファッション工芸専門課程の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となる。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的制作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とする。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワークⅠ修了者を対象として、Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着色ができることを目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションマーケティング	・マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 ・マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・ 通年	60	2			○	○		○		

○			西洋服装史	古代から現代までの時代背景や美術をふまえて、服飾やバック、鞆、帽子、アクセサリーのデザインの流れについて学ぶ。また20世紀以降は各時代のデザイン様式、映画、写真、音楽の歴史変遷にも触れ、なおいっそうのファッションへの理解を深める。	2・後期	30	1	○			○								
○			キャリア開発（コミュニケーション）	将来を考えるテーマについて、「聴く」「書く」「話す」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを講義＋実習を通して身につけさせる。	2・前期	30	1				○	○							
○			キャリア開発（就職対策）	学生が志望する就職先に内定するために必要な「就職力」を講義＋実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1				○	○							
○			特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	60	2	○				○							
○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。	2・前期	30	1					○		○				○	
		○	インターンシップ ^a	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実学を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ就職に対する意識の向上をはかる。	2・後期	30	1					○		○		○			
合計					20科目		1170単位時間(39単位)		
(別紙様式4)																		(3/4)	
授業科目等の概要																			
(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 2021年度																			
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携				
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任					
○			シューズデザインⅡA	シューズデザイナーとして即戦力となることを目標に、シューズデザインⅠで習得した基本スタイルのデザイン理論・技術をもとに、ブーツなどの難易度の高いスタイルやモカシン、スニーカーな	3・前期	90	3			○	○			○					

○		シューズデザインⅡB	どのデザイン手法を学び、その応用によるオリジナル課題作品の制作を通じて、高品質でオリジナル리티ーの高いシューズデザイン力を身に付ける。	3・後期	90	3				○	○	○					
○		シューズパターンメイキングⅡA	シューズパターンメイキングⅠで習得した基礎的な型紙理論、設計技術を基に、ブーツ、スニーカー、モカシン、モンクストラップなど、より難易度の高い設計方法を学び、将来デザイナー職としても必要なパターンメイキング全般の知識を高める。また設計技術職での就職も視野にオリジナル課題作品の制作などを通じて即戦力になる力を身に付ける。	3・前期	90	3				○	○	○					
○		シューズパターンメイキングⅡB	シューズ制作実技Ⅰで習得した技術をもとに、より難易度の高いブーツ、加硫スニーカーによるハンドメイキングでの作品制作を通して、それぞれの靴製作工程での重要な品質のポイントを理解し、靴業界に就職後に必要な品質を見極める力を身に付ける。また靴メーカー生産技術職への就職にも対応できる基本的な製靴技術を習得する。	3・後期	120	4				○	○	○					
○		シューズ制作実技ⅡA	シューズ制作実技Ⅰで習得した技術をもとに、より難易度の高いブーツ、加硫スニーカーによるハンドメイキングでの作品制作を通して、それぞれの靴製作工程での重要な品質のポイントを理解し、靴業界に就職後に必要な品質を見極める力を身に付ける。また靴メーカー生産技術職への就職にも対応できる基本的な製靴技術を習得する。	3・前期	90	3				○	○	○					
○		シューズ制作実技ⅡB	シューズ制作実技Ⅰで習得した技術をもとに、より難易度の高いブーツ、加硫スニーカーによるハンドメイキングでの作品制作を通して、それぞれの靴製作工程での重要な品質のポイントを理解し、靴業界に就職後に必要な品質を見極める力を身に付ける。また靴メーカー生産技術職への就職にも対応できる基本的な製靴技術を習得する。	3・後期	120	4				○	○	○					
○		シューズ造形Ⅱ	シューズ造形Ⅰで学んできた様々な造形の表現力をもとに、究極の立体造形であり靴で最も重要な道具であるラスト(靴型)のオリジナル制作をラスト工場の協力も得て学んでいく。シューズデザイナーとして必要なラスト、モールドソールなどの立体造形の感性を高め、また将来モデリスト(ラスト職人)などの職種への道にも繋げていく。	3・前期	60	2				○	○	○					
○		シューズマーチャンダイジング	靴業界における開発から生産、販売までの様々な職種についての講義と合せて、チーム演習による商品化計画案作成を通して商品開発業務をシミュレートすることにより、靴業界の商品開発仕組みとその流れを学ぶ。商品化計画にあたり必要な製品仕様書、デザイン画(あるいは現物)、販売促進案などを作ることにより実践的な仕事の感覚を知る。	3・通年	60	2	○			○	○	○					○
○		シューズデザイン画Ⅱ	シューズデザインワークの上で即戦力として使えるデザイン画を習得。就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び創作デザインの企画構成力を目指す。	3・前期	30	1				○	○	○					
○		デザインディレクション	デザインの発想と展開、作品の効果的な演出まで一貫した流れのなかで各個人の価値観を浮き彫りにしてゆく授業。	3・通年	60	2				○	○	○					

(別紙様式4)

(4/4)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程シューズデザイン科) 2021年度

分類						授業方法	場所	教員
----	--	--	--	--	--	------	----	----

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
○			ビジュアルプレゼンテーション	・VPの社会的な役割を理解し、コンセプトやイメージに基づいたプランニング～実行までの作業を行う。 ・「作品」を「商品」として捉えることでよりビジネスに近い提案方法を実践する。 ・ピンワークのテクニックを学びVPや作品作りに活かす。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			染色・プリント技法	シューズ制作の新たな発想の手がかりとなるよう、何種類かの染色・加工法を抜粋し指導する。その基本的な知識と技法を実習をとおして習得させる。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			コンピュータワーク	1. Wordの操作方法を習得し、ビジネス文書の作成力を身につける。 2. Excelの操作方法を習得し、関数や計算式を利用して効率よくデータを分析する力を身につける。	3・後期	30	1		○		○		○		
		○	英会話	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増やすこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級(中位)から中級まで。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			特別講義Ⅲ	ファッション全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	60	2			○	○				○
		○	インターンシップ ^b	就業体験を通して、実践の現場から業界の仕事の内容を確認し、働くことの厳しさや社会人としてのマナーを身につけると共に、希望する業種、職種と合致しているかを確認し、就職に対する意識の向上をはかる。	3・後期	30	1			○		○	○		

○	卒業研究・創作	卒業作品として各自コンセプト、テーマを考え、3年間学んできたデザイン、パターン、製靴技術を駆使し、オリジナルシューズ作品3足以上の組作品として制作する。帽子・ジュエリー、バッグ科との3科合同で学生が企画する卒業作品展示にて決められたスペースに作品のテーマが伝わるよう各自がディスプレイし期間中、お客様に作品説明を行うまでを体験することで、将来デザイナーとして展示会、発注会などでコンセプト、作品の売りをお客様に伝えるスキルと重要性を学ぶ。 作品のコンセプト、テーマ、制作日程管理、作品の完成度、卒業作品展示会での貢献度も評価とする。	3・後期	120	4				○	○	○								
合計		15科目	1080単位時間(36単位)																
総合計		53科目	3390単位時間(113単位)																
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること										1学年の学期区分					前期・後期				
										1学期の授業期間					15週				
(留意事項)																			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。																			
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。																			